北越公用記録

植崎九八郎上書

上書
[illegible]抄全書

ワ 3
3345
9

高田藩儀武人扶持

小普請組永井監物支配　桂濟九八郎

乍恐奉申上候

東照宮様江　御威徳難有年来御治世

和漢古今未曾有之　御静謐中哉而細々之儀

儀ニ此度御趣意ニ付田沼主殿頭様挟摘之趣

故校友宇田川氏遺愛之記

門 ワ 3 滿 3.345 巻 9

仁道を闕 公義を忘れ自分の私曲を働せ執行
然則 国司城主外様御譜代諸大名ニ至迄
籠之其家人郡司士農工商ニ至まて心中傾狂
不仕候者 時の勢ひによりて言を非面に媚諂し
我の何からも令損俗俗将落の世となり実
徒なりといふとも当時の有様を見るに
者ハ言を着し用ひられ達貴賤不正諸事

穏便とも称し其内ニ紛れ御政道の筋
難之御為に服を合者多く出来以ノ族有之ニ
賄賂浪様を遊ばし為御倹約を抱の費へ
となり御役務勢御株ハ中にも尊思入ニ
足又私を立者多ニ有之ひとへて不敬と
唯少しも御入用令初め第ノ一銭対一の勤と結
得を依役人各一年ニ其事ヲ御意と告し

愚鈍なれ共御為の成事なと存寄候者も
己か立身のためにかまへて痛とも存せす其
傍々の者自然と心得違仕て手柄に依え
諸役諸役ハ識すして己か立身の階と心得
御忠臣の如き者ハ覚束なき事の御主宰
是等なれハ人物を用ひ給ふと唯く依怙贔屓
賄賂又ハ知音なる小物を取なす器量ハ

者とても御見なる共者ハ不用器量なくても
御物等御見なるに不及とのハ用ひらるゝ迄ハ其
在掛る事に小俸く取りてまた気の附等今
の無用にして人とも其ひ御得ハ御用立る
者ハ不用なる一同難なき事ならハ御為ニ成
よりおのつから忠臣の御奉公仕る者多く
御下へ迄上納せしむとして民の難儀なる方

かゝる時は其用ゆる人情薄き者ハ其ときに
臨んで衆人を苦しめ己が利欲の為に御益と
称ひ却て御為ニならざる事多く衆人の苦しむ
者十方限り無き時の様ひ是非なく候
志を得ざる者ハ悪道理を絶天下一統歎かはしく
満ちて自然と洪湯に田畑押打潰或ハ山崩し
川流れ大水なとして田畑不足に成行ます

上下の奢者ハ日々月々に増り取銭捨末銭有之
是武士ハ町人の如く町人ハ武士を学ぶ百姓ハ耕作
をさらひ田舎者いとひ都に出る奢者多く候
なく田畑捨し天下ハ食する者多く耕作
者少く成行ゆゑ上水理に違ひ難儀新田
新地ハ人力を費し古田の漸く弱く成益を
知らず年々ハ却て天下の様え知る年 難儀つゝ

蓋年々飢饉等穀高直之甚ニ而困難ニ至り
其外諸色同様ニ而無之限ハ万民の困
窮甚敷道路ニ餓死多く人々相喰及発
動等之患を激させらるゝ迄ハ拙から不忠不義の
愚民なりとも不顧在之事申上候
一 前書ニ申上候通当時上下共張奢く衣服ハ
国大名諸藩中ハ自分々々の身上不相応の栄
候故富商の輩ハ結構ニ而下民ニ至てハ身上
難き故及難渋候ニ付右様之発乱を起し
候事難計候ハ富家当時身一の用ニ当ニ付
候ハヽ厳敷被仰付候事御仁政ニ飢候民ニ施
候得ハ飢餓の者飲食を得し候ハヽ御請
仁慈をも拒候とも悪く難を免れ候ハヽ今
の時ニ当てハ先ッ民を富し候て後ニ教ニ貴

男農愛遊ばれて黎附に民の安堵仕天下の
基堅く相成候上ハ大小名まて忠実に奉り法に
背き一事ハ御政道に背き自分の悪政とも應
き天下泰平を唱へ一の中には只今迄の悪振にて
大小名も次第に得心の者領内の民共年来に
至り取も家慶に成らぬ費を一と振に仕候
一ハ至民も又少も減少に若者に年々を五支候

地頭を親のごとく百姓民共子のごとくに存振
成つ候事一向ハ至て少く候得共かゝる成候上ハ
銀に引渡候ハいつとの事より一の相成候難し
年来の先祖より御仁政を相補候ハ民の
公役を相勤候遠上年に残候を相成候て
天下一統踊躍仕難有御悦の仕合に候
食衣服家宅の制度差御農愛遊ばされ

僅も制法を守らしめんの為にても不違御咎
然候得共周孝弟忠信の道ハ為しめんの貴
せらる達而已難ハ只今迄の者は風し儀を好
制法度嘉しくと万事儀と好にて自然と
国家民饒よこの弱は天下ハ天下の天下なりと
中古御よれらくへんに候事故ニ而ハ米穀金
銀等ハ総而ても御手薄く中年ニ而

万端御法度之厳敷候得共以来ハ御役ニ忘候
其上御法令之当時御違之御指図御違候ハ
御用立之を為し之御儀而然限ハ松武雖有之
御儀之御法令ニ而も当時ニ相成而ハ御勘定
奉行并御代官之大切の御役儀ニ御座候
松平候之事ニ候已ニ右者儀不可不便候
者ハ不及申其人篤実の者ニ候ても然し不届

又ハ格別の身分無之者までハ近座中ニ而被為御
代官携召抱を見申候ニ付限なく無之御除採
武ハ千代ニ至り不相立候御金銀ニ而被下置候
將又近来の者有之候而ハ遊も御座候ハ相勤御奉
且ハ切米而已ニ而者難く無之御気遣在之

一 頭立候御役人ハ相応之人方ニ御撰出御用ニ
被相立候組支配の者有之候役支配之本意ニ

無之候者公事を重し無私精進勤可被励候
御取立御家業御武藝無之候而制禁被及貴賤候
古今ニ勝れ候者有之候て御用被成候一歩
無之候而一時ニ御取出シの儀有之候其外之文学
之外御書籍を拝見申候得ハ御用之筈者ニ被成候の儀
と相見候和らの道にて不致者ハ是を離れ候
様無之候是非ハ天下の法度ハ右法度を守

御様も有之候ニ付御身ニ而も是迄之通ニ候ハヽ可成丈ケ
對 上ニ能様ニ相心得候様ニ御取計御座候事肝要也
御家ニ於て御訓并御法度書の文言ニ能々相記し有之
至て之用事御座のハ萬事御取扱ひ相成候様
肝要ニ

一 官位昇進ハ縁合等ニ而ハ難相叶訳ニ付
唯今迄も有之候是人品の善悪の事ニ而

表ニ礼法御儀式ハ表ハ勿論ども今ニ流石國家
大切ニ存候ハヽ一時の念ニも発し兼ニ満居
少も早手相願ニ候ハヽ其の裏を返し可申候
是非ニ我不平相ニ而ハ逢ら御老中若年寄
并ニ御役々御目付并組頭御役相勤候役
相応ニ人才御撰擇ニ相成候ハヽ若者
組支配の人物をも見立申候人々少も御家来ニ

御錠門ニは格別部屋ニ出入する者の外罷通らず
役所の事ハ又上よりハ役人ニ而奥向の上下並御用
務候ハ何事も表使の者自然と相出し候を
なる思召一の事とし御前文中へ通し取上る
あそハひは此役女中之奥向之御年寄中く右様ならハ
御屋敷申継ぎ割合役々家之内御用人役要
ことなかしてハ無之して年寄共仰にも手年寄し

右調ハ年寄見上より此方御広敷御出口より錠口迄
御女中共之も御錠違して尚無世人の致事を相称
となし役人ニ而御出口迄通して右様之事の請取候ら
前文にも相談ハ右之通り御さへ承り相済ハ用ひ
右様ニ而御他の右錠をとも承り候事共御通し御番
ことに取り年寄ハ婦人の事ゆゑと相ひらき警
奥向の人指図ゆへニ此段相改候事ハ難申候

御役人ハ廻も取立候者ハ格別出役人ニ至てハ御締
手向兼候入用ニ付ての者も無之一統篤と心得
成役の御書面定ニ而ハ苦敷者とも心得無之人ニ候
候分るとものとも心得ニ而奉公ニ勤めより相当交
と存候處其役の者諸親神の様よ思召
組合ニ而其年のとも知縁共しかと入無之
志なく候者も多勢ニ無勢叶かたく相成り候得

者ハ外聞ニ而年来定雖年て宜く候是非なく候も
御目安役儀人ニ而用ひ外指ニて自然ニ混雑
も無之宜敷道の沙汰ニ相成候一体ニ而ハ御目付
相当之御役席ニて夫之上ニ候御役ニハ無之候處
諸人の思ひ御役掛りニ而心得候ニ付ても引合ニ而諸人の
聞ニ候組屋候の者共勤ニ而御締ニ相成る笑止事ニ御座
之者共人ニ候ハ格別親の勤かたのわかりかね候人
何とも

此間ひ来候義ハ去歳ゟ仕候儀ニ手当候此度
至て八宮殿御押し出候段甚不慮以振舞ニ不至
却而猶ひの振舞候く役ニ事一の不足く以人々
実意も帰依仕ニ人々も何ら無候之事ニ候

一 此度江戸町中困窮ニ付米穀下直ニ相成候
町奉行ニ頭取ニ而支町奉行ニ取扱ニ付及騒
動ニ候へく曲関東之迄ニ而之候御救之儀

手様以之悪可申出者見以而此度の騒動
中く一統一夕の統り不之騒ニ関東之候并人
古役且此時所当ニ付大ニ遊来候村山村
信濃守殿ニ至候ニ而指南以く手様ニ得者
両人共ニ取扱ハ同様く候ニ手様ニ従来ニ候
人ニ極なく候儀ニ手様ニ存候七様ニ申聞ひ
来押ニ之ハ人の知ニ而申付ひ世僻も皆之候ニ

御當町人共取扱之義従来米穀ハ銘々手
米穀之義先祖之積續ニ而米穀運送之儀ハ
當所之取役ニ而差置候町人共ゟ由来仕候
守之町奉行ハ一切不関之者ニ而差置其指揮也
是非取用向ニ而茂義定候ハ差置候上治方も無
之儀者一之取扱義ニ而差置左候得ハ取扱義も
近年御手先ゟ町人共ハ上下共御扱ニ付右

上下共米穀自己之可営為一身之働ニ而
撫育ニ相成候得共結句町奉行ハ外ニ而有之
御為ニ罷成町奉行ハ萬穀之義相立候ニ而ハ米穀
豊饒ニ相成候米穀相場立候ハ万之町奉
行ゟ弾張候義有之一向之義ニ付旦ハ万一
川濃米穀拂底ニ付而ハ申合米穀働ニ而も
座候ニ付而申立候ハ元ゟ之為勝之町人共

家禄を失ひ候而地借店借ニ而町奉行ニ而御略相
聞申候趣ニ当時右者ハ役利上の者ニ付
始終様子承候ニ付御役料ニ取合不成
是迄申成族御役人中疑候を煩ひ已ニ絶
見候族も有之候ニ付一昨年不和合ニ付右様向
聞候ニ付若年銭納而齟齬(ソコ)いたし薬をも差
様ひ候ニ付何分くれくれ申出候而も相分ケ

已ニ所一旦聞立不申候処御為ニ宜敷族ニ
様ひ相手ニ和合の大帳中ニ而忠義之為
少者あらてハ末々之所便ニ而義ハ出来不申
候と存候ニ付右の人を遣し不及候段
ひらき候様奉存候

一 連年凶作去年大水ニ付家数多く流
死候而一同ニ付令難儀いたし候処ニ

至ル織ニ而者米穀掛候ハ無是非米
穀之儀是一日ニ而候ニ付相稼無之稼無之了
事ニ至ては自然ニ相場ニハ雑中ニハ米高
人ハ時ニ当而なりて織も二の為ニは何一体
米穀の事ニ之融通悪しく無之利潤
計ニ而中ニハ辞相止中ニハ売ニ之自然
の用意も高直之事ニ而絹織物相成ニハ此の儀

し其相場ニ而米中ニハ此時ニ付天下の融通
中々難儀の儀ニ而ハ動きも中ニ而は大ニ
在ニ而相場ニ而は相当之の御心しも縁元
を迎え一同難渋之事も能豊熟と申ニ
雑穀ニ而相事も諸品共高直ニ相成候也
何事ニ付而も相益の無限果ニ而は絹織高
人難渋之事ニハ相成ニ付諸品高直ニ高ひ不

中ニ而ハ善右衛門義御用中ニ而差出シ不都合ニ御座
價一織ハ不足ニ付相場も高く之上ニ候而茂是迄
何も是迄之通り仕来ニ而御座候織物并下直ニ而も不
小商人織物売買仕候者雑穀并穀類売買仕
者別而直段仕候儀先年より書上ニ御座候文仕候
来候得共右直段ニ而ハ売買出来兼候文ニ而も何分ニも得
共之外雑穀之類同様之人々出入候仕候

通候也御門上より被申付候織色之高直ニ相成候故織物売買
一切別合下直ニ相成候ニ付小商人共之者難儀
御申候分別義ニ付申聞候ハヽ此上と存候得ハ何分にも
候儀も有之候得共織物売買下直之趣ニ而も不ニ而宜敷
絹織物交織并小織之縞類之ハ出来兼候而も
之儀とも相改候処元より之儀ニ有之候得ハ組合之分
中組合之得共織物下直と御沙汰被仰付候得共者

理ハ同事ニ候得共其稼ニ而有候義
自然と其理ニ而も雑蔵事ニ候得ハ右蚕織
右縞の類上二の糸遊出羽綱絹の性合宜敷を
織縞ハ糸撚ニ而立不申右縞類上二の中ニ而茂
上結色絹同様ニ而高ひ仕立の割合織賃之
不相知候而織賃の出来類上ニ而格安ニ[illegible]
民百姓安寧二の結ハ甚宜割合を致へし

かも家業ニ織を致候者共ニ而ハ不案内ニ而上達
織延合糸結方ニ付一日ニ織仕上ヶ其割[illegible]
將雑有二の事ニ而食物を織細工結候同罷之
花織の事高ひ去んとの織方手抜[illegible]
御為頼事前ニ而其稼者安穏ニ差置候
始終者其出所者の事ニ付

一 近年百姓共農業を止遊芸を捨本業ニ長しかも

百姓の者も耕作を召仕の男女に任せ自分ハ
其役を免し持具を手ニして江戸表へ一度
出る時ハ驚き為銭を遣ひ大金を無益の悪所へ落
入候由百姓中ニも耕作を疎き事ニ心得
多くハ其役目持に成り女子供も親心も
離れ江戸をよろしと心得奉公ニ出せは其身の為
古ハ意愛思ひ是を誤り江戸住ミにて後ミ小生

右江戸へ罷出候者共奉公稼ニ参り江戸ニ居付候
江戸住居致し見てハ田舎をうとみ候者も
多く成行民の本業捨れ流行ニ相成不
是而成り候ハ自然自ら江戸へ出居住致す
成候得者江戸ハ諸国の人民溜といひ候江戸
表ニ参候人数ハ盤石品銭源ニ相成候得者
本来されに来ハ太着餘り人多く耕人少く土地

農業務かり安危の基ひ第一大切之義ニ
存候ハ勿論士農工商四民の立流を失ハず人倫
の道を守り候ハ相応之業相稼候得ハ渡世之
者ハ人別帳ニ無之者相除候ハ相ならずして不埒ニ候
座候而者何ニ而も不埒之者ハ相拾候者相候ハ
遊民渡世ニ而農士民の内ニ紛候者有之ハ不宜事

一

何ニても医師と申候儀ハ薬湯師鍼治師
琵琶法師之類と申ハ仏門ニ在之帰依せさる迄ニも
僧と申ハ遊行者或ハ天下之むさ塵の内ニ憎
出家といふハ和尚上世の害と成候者多く之者之
医師ハ人命を預ル所ニ薬人ハ琵琶鍼人ハ
其業より萬貫への人ニハ不遊遊仕候所ニ而
若者共放蕩ニし勝手向不宜不成候者
其被成ニ而悪事と非常等之儀ハ是非ハ

世界に在る恒の者には得手能猶の取手芸多く候
何ら無能しく 一芸は人別様不高貴難を記に
或ハ家居工商職へ入世実ハ端宗計る滋世
役人者多く 又は万に寄して名付と沙汰致
鰥寡孤独大名場に於いて出まし役付或ハ寫懸抔ある
人様抔によらかし 泉ならん無町同心也方遣織
方の役人也了以作にて同方へ入也りし以者様なし

殺人沙汰有事につけ者の職を極まし尤も役無
役の者 不届者多く有之には右役人者江戸中
有之ては右以振に悪者者共気を付以て定を
役所する事て経以ておし以て来随て補給
其以て之かし実は事に世の中何には尤も一つの法を
武家を役の役人を存て悪者に滋をかなは
不届者ら取らぬ者数に有ても也月ひら拵るハ

雖有御政道ニ差支候ニ付只今迄町奉行
其外手附役加役ニ而目明しと称し
悪者を被召出候者共ニ其品ハ種々有之
候ひの知るゝ居らぬ諸の事も聞し悪者
まて右之手柄を以己か身持勝手ニ中ニハ手元を
以得意ニ而ニ非の者共中ニ立雑居候ニハ
其身も及ばく振ニ非儀ニ非人の中ニても権用して

名付右之年いたし自分役人の振ニ而町人
御下緒の形ニ致し六様を御見中ニ而是非世上の
法ニ背候者ハ差て法度ニ有之候

一 町奉行之手先ハ町方ニ而権威を振ひ諸事
取計ひ候ニ付悪事を隠し威を以納得候
遂ニ無遠慮取計候ハ手前より求る様
不相成ニ付右者共召放し御差止ニ而は仕置之の

御家人小給の者共徒党相企立候者於有之
候而者其身ニ恐多き儀ニ候ニ付出家中町方者寄
元對容ニ而候得ハ武家ニ而も其家之法式
ニ而礼を乱さんとする也云聞此ニ有べく候事不苦哉
の義ニ存候者ハ猥之儀ニ候て狼藉ニ致候而ハ其上之
之人ハ中せ申ニ候上御條目通ニ何様ニも被成
候得方ニの者ニ而ハ大名家中等様ニ申付候而捕候

猶此段ハ町同心類迄非道非路を致候事是
不存分ハ其筋ニ而ハ同心を謝礼の様ニいたし人を
打擲いたし又ハ浪人の借り義ニ是非ハ在町之方
ニ而ハ公事訴訟取扱ひ又ハ諸證文間役の
類多浪人共宜きニ書ハ者多く候者ニ而候得ハ
私欲より利欲非分ニ曲者共ニも携ひ候事
都而不宜候事　上ニ而も御糺有之人物を以

穿鑿大切之義ニ候右様ニ而ハ奥御右筆之表
伴之御手ニ附候ニ付推薦之者共を入選
筆者多く候様ニ付居候之の人々とも見えし
御右筆之とも一の為ニ成候其上立身之筋ニ者ニ心得
ても見義之様ニ御取扱方御心得見の数甚多
成之之御心得格式を振ひ御筆立候事多候
様ニ御奉行中ニ而無之義ニ御様ニかゝり候

御取扱之者御取扱中ニ御右筆向縁様ニ相成申候
為之儀ハ人儀若し此御右筆衆御役付之而も可致
御済之御取扱方ニ而役御後指御勤兼可申
様ニ而右様ニ而此節諸役之私欲在之候様ニ
立厳敷御役御見分後御役改ニ而立帰り一分今
世上無据候ニ而ハ表示者ニ而者遠慮致候
其上名縁失ひ一の中ニ人質の優劣を以等級

も致為立候て奔走し当利娯楽に雖尽結合
されは縁々に浮御業を磨き候て不致を尽に
後し彼向も手接ば用達て使し一の中は
一 当世不幸なる者ハ大小名以下に至るまて貧
より貧窮なる者の浪男以下年々縁付女子ハ
其後は治割家業を専一に其縁を当世縁組
其のみを結納によらす古来より之多分之事

の為家に縁をも取扱は取縁を定は相応之縁ハ世を
も結縁を取者も其親貧なるは是又一生埋ま
まして女子ハ丈夫に逢ひ身をも立て之定取者を
為も是迄之年頃はせ取婚付かぬは不結
合者は縁組致す事ゆへ親ハ女子の嫁せる
迄は不縁なりとも不知貧窮なる儀より何方迄
も纏ひ子孫は抱き置同真列之一の家婦人儀

疵付候ハ親子に恥辱をつけ候男子にとゝめたる一角
用ひも一の道人家も憚きなきて隣に懐ろ候は
せいと申も悪所に落入者多く末ニ至ては
金銀より上の大切なるものなれとも世上一同ニ候
此事は不義ある故法度を於いて金銀と共に
能掟り密通は制禁に能掟りて法度の道
者とて及ぶ法度にかかる者とも法度候

如様自分人倫之道ある也　御代々之御掟
一の中には人倫の道有者迄も外に猶之掟女
年久しく好色に身持さる者共少しも容赦なく
婬を持ち候を本来の奉公為致にても先子
年よく合せて見に国々迄党にもかゝる古き無之人
而も可然女子にも捨果相と成悪事に身候
亡しける見道又不寄の事也若き男とと

売女ハ房内ニ於て元満(?)し候得共人情御無く
是ノ為ニ君父の命ニ逆ひ身代不得(?)之色も
思案ニ沈ミ果ぬる事多く是非なく己(?)身
不足延遅も上古ハ不知先古今多くて不絶猶
是に依り候得共御定の端々抔女の分ハ不絶
御領ニ於て致抱度候ニ付只今之ハ不定(?)の
年貢上納地ニ致し候得共其ハ地抔候へ

杭領も御上納座敷ニ売女共ハ提灯抔
不も売女は如何云義不ハ売女の庇持領
家業ニ而悪口申者も有之候も強盗抔く
縁ニ有様ニ而中不も相応之親も有之候
当時上三石程の者女子を売と云人ニ抱候も
三味線小歌踊り抔四拾不申候ハ石抱不
中ニ而器量ニ依り無之大方嫁入持候

小哥三味線の指南ハ世人中を見世行武芸
之世ハとて　卿ニも仕候ものと被存候ハ指南多く有之候
中ニハ又ハ其の事ニ出来申間敷様ニ藝者を
仕立指南人を高声ニ叱も又ハ手ニ持まく思ふ者ハ
名を藝者と呼ひなくハ三味線も弾候て
実ニも賣女と同様之儀ニ付、文ニも無調法
者は地獄と申ニ名付隠し指女の又隠

賣女ニ者も一向ニ無之候、是も近頃ハ追々被ハ
出来之候ニ付、只今迄ハ手入ハ難ニ付候者
仕道ニ是迄之ニ相止候を御蔵ニ候節ハ卿ニ而手入を
猶又之ニ被賣女ニ申付候よし
御公儀ニ於て出来不届之上ハ御中ハ観之
ニ候ニ付、ハ出来ニ御指上ハ間ニ合不遠ニ而
指南ニ遊芸ニ致候事、併し、新規ニ成候事ニ御座候

唯今之躰ニ而売女は隠置候而も町奉行ニて
組の者共召捕売女ハ牢舎申付候
隠し売女抱置候者共ハ召捕候得共召捕候ハ
多くハ立退候上ニ闕所申付候ニ付ハ兼テ
より知候而牢屋舎ニ而欠落致し候而後ハ能売女を隠
し置候売女を抱置候而出候組売女を隠売女一同
御停止被仰付候ニ付申候得共只今之ニ而ハ越度ニハ

御座候ニ付吉原町ニて残候者共被候之者召捕候ハ
飯売女人数ニ而差置候売女ニ而牢舎ニ申付候得ば
已上御定之儀も取計候而御勤候ニ而申付候
一の[illegible]之儀年数相立候而番衆ニ差出申候江戸中同日
之利ニ町ニ而御仕付売女屋売女の人数
不残答之年ニ雲村ニ而被仰付候節之
右知候而旅籠ニハ宿ニ而ハ何編町役人之と答

畢竟右様之所為致候ニ付御役所中一同人
別相分り候而養女共之親元𢌞り凡而候
就而ハ養女屋ニ而も養女又ハ娘を養女
ニ差出し候ハ親元ニ而只今迄之不届ニ付町内
御年寄ニ而出会無之都合宜敷者ハ町人共ニ至迄
屋しらせ候就而ハ御役衣右之者共ハ離散
仕候者共を佐指図致し就而ハ農工商の業ニ因

御年寄ニ而も夫々見繕ひ為右様之由町役人
就御付掛り衆ニ付御召捕役人足中之者ハ
其外右親元ゟ申渡候而其々請入候
上ハ夫々職分ニ有付候而逃失人別帳ニ記し
中ニ者一体養女屋稼致候者ハ生得放蕩者ニ
有之候ニ付養生職分ニ有付候得共御免之而悔悟不
致者ニ有之候而早速御処置致し御仕付之筋も

去年は職分無之因男女入込して湯屋等へ介
江戸端々まで少しも御手当大概減少いたし
入込ニ候又ハ窮ニ候入込も多く御座候ニ付候得共
昔者其節を御座候ニ付御手当被仰候も何しく
打殺し其給を見せ候へく高ひ哉ハ去り難の
湯掛を分らへく會ハ家抱へく中は是ホの類
然ハ終ニ於ても一の様去年抔は

一 鰥寡孤独ハ別而御憐愍之御趣意者御座候ニ付
由依之付ニ公宿并孤ハかつて多く打殺は猶ゝ有持
不相そて公宿とも殺候者も一のまゝて御撫育先ハ
宿飛民と一の中者を御座候は只今哉ハ依渡は養
分も識集漏は其者は御渡も稼多町に養
ハ里御留非人ハ職多く左右公宿の御扶持ヲ
小会之一當人とハ御當を幸く相扱は付倒死

縦令二三百石も不申立候得共御扶持米并
少取ニ而己ホ之利欲之仕出無之候得者仕方有
之者ハ猶更御撫育之仕方流民ニ罷成候
故ニ相成候ニ付此当家ハ相当不仕候ニ付猶以御
賄賂等も有之候ニ付此御府ニ被相成候而御座候
荒地之儀ニ付公儀ニ相成候得共相応之者ニ相成候所ニ而
候へ共雑用ニ出来又ハ公儀御勘定ニ参

然人も相果ニ而申候通相果候而荒地相果候
後ニ荒地ニ相成不申候而別村壱ヶ年も御扶
持米相渡農業致させ候而其村ニ壱人之民と
相成荒地も耕作仕難有義ニ存候ニ付
右之通御仁政を以御救被下候得共不埒者
御座候者ハ農業相怠候得ハ御料所之不届
奉御手当候ニ付良民ニ相成候而不申儀も有

百姓共儀は急用流民之害地相成不
中は手前一之御渡候と百姓は存候得共
當時並高々御勘定奉行御代官方能々
者共御撰被仰付て持之百姓役便中百姓は
道理之上厳敷申付急度相成銭ニ付候村
役々勤略付候とも御入用足之申は相成候
上之事而已相成入置候所ニ前得共運之

之殘相成儀被仰付候とも御国用足之雑事
百姓ハ耕作之業第一之所ニて只今之通運之
御指図被仰付候とも御用之余業ニ而一分ニて成
耕作役之外相成候共御用ニ被仰付上ニ而無之
相續いたし候得ハ大道之公儀天下共不成る
之御通候被仰付候て運之御取立之御積候ひ
被為在候ハゝ安泰成候事被成之百姓は

一　公私之差別人心の帰服仕候と服せさると
擬え当時別而肝要之義ニ奉存候ハ世上安らかなる時
節ハ抑而隠密なくしても恥と相成候の義
無之候ニ付其　道理上より和睦致し候とハ
兼而隠密ニ而者無之候而も害ニ人気も出して見
出候ハ旅中も急度御堂年相成申し其の害者
却而ハ隠密ハ書中相成候上下一体に致し合

無和睦の心離れ候而ハ者有之哉と存候ハ
渇当時之隠し候根ニ相成中ハ急角ニ相成
其公を以人心帰服仕候ハ勿論労し候ハ
力労労し相成候ハ而ハ安泰ニ
御代を立帰りて存候ハ
一　当時御政道の大綱を御任之も相談制度
新為立当人罷在る意旨相談と存候而直ハ

是ハ民ニ年貢金銭を施し候義ニ而飢饉を
御救被遊候義ニ候得ハ一時之儀ニ而只今
まて自然凶年之節ハ世上困窮と成候
候を御救被遊候而ハ永世之義ニハ無御座
兎角民の公役を減し諸運上冥加御免
被遊候て民の怨嗟甚雑用之仕合ニ候得ハ
至上制度を立させられ候ハゝ不遠世上ハ

一
両様ニ立候ニ一の事ニ而常の難儀ハ年々ニし
財の難儀を減し候得ハ仁政之第一ニ可有
候得共先此時ハ常平ニ而ハ常財左ニ
安堵被為在候ハゝ二様ニ成候て二様
帰して後世の民居ニよりて人倫五常ニ社
成申候ハ寛仁の御政在ニ有難候て自然と
治国ありて五穀豊饒天下一同

璽綬を御伝可奉候

右之趣寛猶御為徳にも可有之奉願候一意

中にて儀忍ひ旦私儀ハ同書ニ毎方

叔父熊勢茂為義ニ付茂披之義本ノ御候

要之御書通之意拙者仕候間ニ是非ニ候

別而恐入奉存候得共拙者ニ而ハ殊之外不案

而申上候ニ付神ニ而不思ニ二の事ニ而候

尊命奉申上候旅徽細之義も御座候

仍而ハ思召之由無一事ニ而交能分拙も

一の事儀ニ一の事ニて候得共白紙ニ一の事上

御事ニも無之義も奉存候得共ニ同く書付以

奉申上候身分有者ニ而無之御座候御始め

儀御奉待尊命候以上

未
七月

拙者九八郎

五